

令和4年度全国学力学習状況調査の結果分析等について

学校名

秦野市立南小学校

1 調査結果の分析と考察

本校の特徴	本校の課題
(1) 国語では、国語の大切さや有用性を認識し、多くの問題で無回答が少なく、粘り強く取り組んでいることがうかがえます。理科では「理科の勉強は好きです」と回答する児童が多いです。実験の方法について情報を基に、実験方法の改善を考える力がついてきています。	(1) 国語では、複数の叙述から登場人物の心情や行動について読み取って考えることに課題が見られます。算数では、求め方を言葉と式で表現することに課題が見られます。理科では、複数の情報から分析・解釈し、自分の考えを持つことに課題が見られます。
(2) 将来の夢や目標を持っていると回答する児童の割合が高いです。また、いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うと回答する児童の割合も高いです。委員会での活動や、他学年交流を通して、子ども達自らが主体となり取り組んでいる成果です。	(2) 昨年に引き続き、失敗を恐れなくて挑戦すると回答した児童の割合が若干低めです。自己肯定感を高められるようにスモールステップを用意したり、自信が持てるような活動を取り入れたりすることなどを大切にしていきます。
(3) 読書が好きと答える児童の割合が高いです。学校全体で週に2日読書タイムをしたり、図書委員会が中心となり読書週間を設けたりして、普段から本に触れる機会が多く、読書の習慣が身に付いています。その一方で読書にかかる時間は二極化が見られます。	(3) 放課後の過ごし方で、読書や勉強をする時間が少なく、テレビゲームをしたり、スマートフォンでSNSや動画視聴などをしたりする時間が多い傾向があります。家庭と協力して家庭学習の定着を図っていきます。

2 昨年度の取組の分析と考察

(1) 学校教育目標として「自分らしさ、優しさ、たくましさ兼ね備えた児童の育成」をめざしています。将来の夢や目標を持っていると回答する児童の割合が高いのですが、自己肯定感を上手にもてていない児童もいます。児童が自分の良さに気づくことができるような声かけや働きかけをしていく必要があります。
(2) 校内研究では「主体的に学び、自分の考えを表現することができる子どもの育成をめざして」というテーマで算数科の「数と計算」領域における授業作りに取り組んできました。その成果として計算や最小公倍数を求めることなどには一定の成果が見られますが、目的に応じて数を処理し考察することには課題が見られました。
(3) 教育委員会と連携して「アプローチプログラム」に取り組むことで、問題形式にも慣れ最後まで粘り強く取り組めた児童が多かったです。自分の意見を表現(書く、発表)することに苦手さを感じている児童はいますが、記述式の解答率の上昇につながっています。

3 教育水準の改善向上に向けた次年度の取組の方向性について

(1) 学習内容を、いかに身近な問題として考えられるように工夫していくか、ワクワク感が高まるような工夫、驚きにたくさん出会えるような授業の工夫をしていく必要があります。また一つの情報や視点だけではなく、複数の情報や視点から自分の考えを導き出すことを意識させるような授業を展開していきます。
(2) 引き続き「書くこと」を意識して教育活動を行っていきます。ICTも活用して、自分や友達の意見を視覚的に捉えながら、表現方法等を身につけ、書くことや表現することの楽しさを味わわせるような取り組みをしていきます。
(3) 本に親しむ機会をより多く作る取組を行っていきます。現在行っている朝の時間を使った「読みましょタイム」の他に、毎週水曜日を「読みましょデー」として設定します。学校図書館で一人に貸し出す冊数を1冊から2冊に増やし、さらに読書活動が活発になるよう推進していきます。

4 家庭・地域の方へのメッセージ

・家庭で分からない問題があると、先生や家族に教えてもらおうと回答している児童の割合が高いです。日頃から、子ども達に寄り添い、サポートしていただき感謝申し上げます。今後もより一層、学校・家庭と連携を取りながら子ども達を見守っていきたいと思います。
・家庭学習の定着に向けて自主学習ノートの取り組みを進めていきます。また、重点項目として、「あいさつが響き合う温かい学校」をめざしていきます。今後ともご家庭や地域での声掛け等ご協力をよろしくお願い致します。